

岡山県史上最大の貝人 畠田和一

「貝人」とは、貝類の存在そのものに興味と愛着を抱き、その研究を深く掘り下げたり、標本を集めて愛し、楽しむ人々の総称です。お茶を嗜（たしな）む人を茶人、俳句や和歌にいそしむ人を俳人や歌人と呼ぶのと同じく、「貝を嗜む人」のことです。貝を好んで食べるという意味ではありません。貝（特に殻）を集め、その造形の妙や美を愛（め）でて、ひいては生き物としての貝類について学ぶことです。貝人には、プロの研究者からアマチュアまで様々な立場の人が含まれます。

洋の東西を問わず、いつの時代も、熱心な貝人たちが存在します。彼らは誰に命じられたわけでもなく、自発的に貝類へ興味をもち、自ら野外で採集するなどして標本を集め、やがて独自のコレクションを築き上げるまでに発展します。

そうした人々が集まると、それぞれの地域で自然と「貝類同好会」「貝類談話会」といったコミュニティが形成されます。それらは単なる趣味のサークルの枠を超え、貝類学の後進研究者の教育・育成機関としても機能します。実際に、現在の日本で貝類分類学の最前線に立つ研究者たちは、ほぼ例外なく、幼少時にそれぞれの地域の貝類同好会や談話会に所属して、先輩たちから薫陶（くんとう）を受けて成長し、現在に至っています。

西日本では、兵庫・広島・島根・山口各県や四国全県、九州全域それぞれに別個の貝類同好会または談話会が存在するか、またはかつて存在していました。

その一方で、岡山県だけは、歴史上一度としてそのようなコミュニティが存在したことがありません。岡山県は様々な理由で近隣他県に比べて貝類の多様性が低く、陸産貝類については「日本屈指のかたつむり不毛の地」とまで呼ばれる有様ですが、これは貝類そのものだけの話ではありません。岡山県は同時に、「日本屈指の貝人不作の地」でもあるのです。

しかし、そんな岡山県にも、かつてたった一人だけ、全国の貝人たちの間にその名を轟（とどろ）かせた凄腕のアマチュアコレクターが存在しました。その人こそが、ここに取り上げる畠田和一（はたけだ・わいち：1897-1965）です。

畠田和一は岡山市内で長く暮らしながら、1930年代から60年代にかけて、全国の同好の士との間で標本を相互に交換して多くの貝類の種を集め、自らも頻繁に野外に出て採集を行いました。当時の日本の貝類分類学を先導していた

研究者のトップランナーたちとも親しく交流していました。その結果、5つの新種または新亜種の発見に直接関わり、そのうちの一つであるハタケダマイマイにその名をとどめています。

1965（昭和40）年に死去した後、生涯をかけて集めた貝類標本がどこにいったのか、長い間わからないままになっていました。しかし2010（平成22）年、鏡野町でひっそりと眠っていた幻の畠田コレクションが、およそ45年ぶりに再発見されたのです。

そのコレクションは膨大で、少なくとも1万個体以上に及び、再発見から9年が経過した現在でも整理が完了できていないほどですが、その中身に改めて触れてみると、いくつもの驚くべき標本が含まれていることが判明しました。具体的には：

1. もはや再入手が全く不可能か、困難極まる種が多数含まれます。例えば、近年の環境悪化によって絶滅してしまい、二度と野外で見ることのできない種や、渡航が事実上不可能な地域（北朝鮮など）の種が多数見られます。

2. 1960年代以前の岡山県で産出していた種が網羅的に集められ、当時の県内における自然環境の様子を詳しく知る手がかりとなります。特に海域については、他の生物では文献記録も標本もほとんど残されていないため、畠田コレクションが最大にしてほとんど唯一の研究材料です。その結果、岡山県では畠田和一の死後、1970年代から現在に至るまで、どんなに少なく見積もっても30種以上の貝類が県内で完全に絶滅し、600種近い種が絶滅に近い危機的状態か、または強い減少傾向にあるという衝撃の事実が初めて明らかになりました。

特に上記の2は、岡山県本来の自然環境と生物多様性を保全するという観点では、決して避けて通ることができません。その意味では、畠田コレクションの研究上の価値ははかりしれないほど巨大なものです。岡山県では戦後の高度経済成長期に、過度の環境悪化によって貝類の大量絶滅が生じたことはもはや動かしがたい事実ですが、それ自体、畠田コレクションが存在しなければ実証することは不可能でした。私たちはすぐ目の前で何百種もの生物が滅びていったというのに、その恐ろしい事実気づくことすらできなかったのです。それを唯一教えてくれるのが、畠田和一のコレクションなのです。

このたび、その唯一無二の畠田コレクションの全体が、倉敷市立自然史博物館に一括して寄託されました。このコーナーでは、その中の重要な標本を選んで順次展示してゆきます。これらの標本とともに、もはや決して取り返しのつかない、過去の岡山県の自然の姿に思いを馳せていただくと幸いです。

畠田和一略歴

- 1897（明治30）年1月27日 兵庫県淡路島に生まれる
- 戦前、南朝鮮蔚山でナマコ・ホタテ漁の網元を経営
- 帰国後、神戸市でブリヂストンに勤務
- 戦中は岡山県タイヤ配給組合の要職を務める
- 戦後、公職追放対象となる
- 1965（昭和40）年9月18日死去 享年68

貝類に関する略歴

- 1931～1932（昭和6～7）年頃 岡山で貝類蒐集を開始
- 1933（昭和8）年 日本貝類学会入会
- 1935, 1936（昭和10, 11）年 *ヴヰナス*に貝類方言に関する論文を2篇発表。このころ、新種サチマイマイ・ハタケダマイマイを発見
- 1950（昭和25）年 オカヤマコギセルを発見。以後数年に亘り夢蛤に数編の報告を発表

畠田和一による著作

1935. 岡山県貝類方言. *貝類研究雑誌ヴヰナス*, 5(4): 229-236.
- 1936a. 小豆島貝類方言. *貝類研究雑誌ヴヰナス*, 6(2): 114-118.
- 1936b. 彩色蔚山貝類図譜 第1輯. 80 pp. 吉備貝類荘, 岡山.
1949. 美作大野村の葬送. *岡山民俗*, (1): 6-7.
1950. 岡山通信. *夢蛤*, (54): 43(211)-44(212).
- 1951a. 岡山通信 (二). *夢蛤*, (58): 21(347)-22(348).
- 1951b. 二月にはアメリカへ…引張風の縣産カキ. *夢蛤*, (59): 32(394).
- 1951c. 岡山通信 (三). *夢蛤*, (60): 21(419).
- 1951d. 五周年に寄す. *夢蛤*, (60): 33(431).
- 1951e. 岡山縣英田郡後山陸産貝類目録. 6 pp. 自刊, 岡山.
1952. 貝をたずねて二十余年 岡山縣産の貝類約六百種. *岡山春秋*, 2(1): 16-18.
- 1953a. 余白録 岡山だより. *夢蛤*, (70): 12(230).
- 1953b. 短信 チリメンユキガヒ児島湾に産す. *夢蛤*, (70): 25(243).
- 1956a. 岡山県産陸棲貝類目録. 1+7 pp. 自刊, 岡山.
- 1956b. 岡山県産陸棲貝類目録. *美作の自然*, (2): 25-30.